

第 2 学年の実践

自分との関わりで考えるために「画像、音声の活用」「道徳教育との関連」を手立てとした実践

I 学習指導案

- 1 主題名 しぜんのうつくしさ D(19) 感動, 畏敬の念
- 2 ねらい 身の回りにあるものの美しさについて考え、美しいものに触れて気持ちよさを感じたり、感動したりする心を大切にしようとする心情を育てる。
- 3 教材名 きらきら (光村図書 「きみがいちばんひかるとき」 2)
- 4 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について

日々の科学技術の進歩は目覚ましいものがある。このことによって、私たちは物質的には豊かで快適な毎日を送ることができるようになった。このことから科学が万能であるかのような錯覚をしかねない今日の社会においては、科学の発展を期待し理性の力を信じることと同時に、人間の力では到底説明することができない美への感動や崇高なものに対する尊敬や畏敬の念をもち、人間としての在り方を見つめることが求められる。自然が織りなす美しい風景や人の心の奥深さ、清らかさを描いた文学作品などに触れて素直に感動する気持ちや、人の心の優しさや温かさなど気高いものや崇高なものに出会ったときの尊敬する気持ちなどを、児童の心の中により一層育てることが大切である。

(2) 児童の実態について

児童は、身の回りにある美しいものに自然と触れてきていると考えられる。しかし、「きれい」や「すごい」、「不思議」と、改めて立ち止まって考えた経験は少ない。今回の話し合いをきっかけに、感動するとはどのような気持ちなのかを感じ取らせ、身の回りには感動する場面があることに気付くようにしたい。また、お互いに美しいと感じたものを紹介し合う活動を通して、人によって感じ方は様々であることに気付くようにしたい。

(3) 教材について

雪の結晶の写真に、谷川俊太郎の詩が添えられた教材である。雪の結晶を実際に見たことのある児童は少ないことが予想される。そのため、雪の結晶の写真を見た瞬間にその美しさに感動することができる。そして、詩を読み、雪の結晶について感じたことを伝え合うことで、雪の結晶の美しさに気付くことができる。その児童の感想に含まれる「きれい」「すごい」「不思議」といった感情の言葉に注目させることで、「美しい」と感動する心がどのような感情かを実感させたい。そのことにより、「美しい」と感じる心がどのような感情かを 2 年生なりに感じ取れるようにしていきたい。

5 教材分析

雪の結晶の写真と詩	感動する心	気付かせたいこと
・雪の結晶の写真が掲載されている。	・きれいだね。 ・すごい。星みたい。	・「美しい」と感動する心は、「きれい」だけではなく、「すごい」や「不思議」と思うこと。
・雪の結晶について、「きれいだね」や「ふしぎだね」、「おそろしい」と感じることを詩で表している。	・六角形の形だ。お花みたい。 ・いろいろな形があるよ。 ・なだれはこわいな。	

6 主体的・対話的で深い学びにせまるための授業の工夫

(1) 本物とイメージの違いから興味関心を引き出す導入の工夫

初めに、「雪とはどんなものか」と聞き、自分が想像する雪の絵を描くように伝える。多くの児童は、雪だるまや空から降る雪などを描くことが予想される。その後、本物の雪の結晶の写真を見せることで、自分が描いた雪と本物の雪の結晶の違いに驚き、雪の結晶に感動できる瞬間を生み出すことができるのではないかと考えた。ここで「美しい」と実感できることで、本時のねらいにせまることができるようにする。また、その際に、結晶を見た感想の言葉を取り上げることで、「美しい」とは「きれい」や「すごい」、「ふしぎ」などのように感じる心のことだと気付けるように板書にまとめる。

(2) 写真や自然音の活用

児童がこれまでの生活体験の中で、「美しい」と感じたことを思い出す活動では、すぐに想起されないことが考えられる。そこで、GIGA 端末を活用し、ミライシードのオクリンクに身の回りにある自然や掲示物の写真を教師が数枚用意する。その中から自分が「美しい」と感じたものを選ぶようにし、選んだものを紹介し合うことで、人によって感じ方が様々であることに気付けるようにする。そして、「美しい」と感じる心がどのようなものかを2年生なりに感じ取れるようにするとともに、それぞれ違った意見を聞き合うことで、「美しい」と感動するイメージを広げることができるようにする。その際には、自然の音にも美しさを感じることができるよう効果音を活用して、海や虫の鳴き声が聞けるようにする。

(3) 道徳教育との関連を図った取組

内容項目が年に一度しかないものだったため、今回の話し合いをきっかけにさらにねらいにせまることができるような取り組みを考える。

①きらきらアルバム

1週間、日常生活の中で自分が美しいと感じたものを写真や動画で撮り、自分の「きらきらアルバム」を作り、朝の時間に紹介し合う。紹介し合うことで、身の回りの美しさに関心を高め、より「美しい」というイメージを広げることができるようにする。

②他教科等との関連

児童は、学校の教育活動において様々な体験をしている。学習指導要領では、「各教科等と道徳科のねらいが同じ方向であるとき、学習の時期を考慮したり、相互に関連を図ったりして指導を進めると、指導の効果を一層高めることができる」とある。そこで、国語や音楽、図工の学習内容と関連させた計画をする。(他教科等との関連図参照)

他教科等との関連図

<今回の内容項目に関連した現在の児童の姿>

児童は、身の回りにある美しいものに自然と触れてきていると考えられる。しかし、「美しい」や「すごい」、「不思議だな」と、改めて立ち止まって考えた経験がほとんどない。

11月 道徳「きらきら」D(19)

「きらきら」を集めよう！！

身の回りで自分が「美しい」と感じるものを探してみる。1週間後に紹介し合うことを伝える。

学習後の1週間後【日常生活】

日頃の生活の中で、「美しい」と感じたものを紹介する。

<自分が「美しい」と感動する心>

朝の時間を活用して、随時「きらきらアルバム」を紹介する。

12月 国語「冬がいっぱい」
冬と感じることを伝えよう。
「冬のきらきら」をあつめよう！！
<冬の季節に感動する心>

12月 音楽「ゆうやけ こやけ」
様子を思い浮かべながら工夫しながら歌おう。
「きらきら音楽」もみつけたね！
<音楽に感動する心>

1月 図画工作「はさみのアート」
切った形から、思いついたことを絵に表そう。
「きらきら作品」をあつめよう！
<友達作品に感動する心>

めざす児童像

友達の考えを聞き合うことで、「美しい」のイメージが広がる。

7 本時の学習

(1) ねらい

身の回りにあるものの美しさについて考え、美しいものに触れて気持ちよさを感じたり、感動したりする心を大切にしようとする心情を育てる。

(2) 本時の評価の視点

<多面的・多角的な見方・考え方>

・自分と違う立場や感じ方、考え方を理解しようとしていることに着目する。

<自己を見つめる>

・現在の自分自身を振り返り、自らの行動や考えを見直していることがうかがえる部分に着目する。

(3) 展開

学習活動 ○基本発問◎中心発問・期待する児童の反応	・支援と留意点*発問の意図☆評価の視点
<p>1 自分が知っている「雪」の絵を描き、実際の結晶と比べる。 ○「雪」の絵を描いてみましょう。 ・雪は、丸いよね。 ・ゆきだるま。</p> <p>2 教材「きらきら」を読み、感じたことを伝え合う。 ○「きらきら」を読んだり、写真を見たりして、何か思ったことはありますか。 ・たくさんの形があつてきれい。(きれい) ・この雪は六角形がたくさんある。(すごい) ・見てみたい。(きたい) ・どうやってできるのだろう。(ふしぎ)</p>	<p>*自分が想像する雪の形と実際の雪の結晶を比べることで、雪の結晶への関心を高められるようにする。 ・様々な結晶の形を見せ、その美しさに目を向けられるようにする。</p> <p>*「美しい」と感じる心がどのようなものなのかイメージを広げられるようにする。 ・児童の反応に合わせて、雪の結晶の動画を見せ、より美しさを感じやすくする。</p>
<p>みの回りにある うつくしさについて考えてみよう。</p>	
<p>3 身の回りの美しさについて考える。 ◎この中から、「美しいな」と感じたものを選んでみましょう。 ・○○がきれいだなと思いました。どうしてかという、○○だからです。</p> <p>4 本時を振り返る。 ○友達の話聞いて、「同じだな」や「確かに」と思ったことはありますか。</p> <p>5. 「きらきらアルバム」作りに向けて意欲を高める。</p>	<p>*「美しい」と思うものを聞かれ、すぐに想起できないことが考えられるため、オクリンクを活用し、数枚の写真から選べるようにする。 ・選んだわけを問い返すことで、人によって感じ方が違うことを感じられるようにする。 ・選択肢以外に自分が伝えたいものがあるといった児童は、最後に紹介するようにする。 ☆自分がどんなものに「美しさ」を感じているかを実感している。</p> <p>*人によって感じ方が違っていたことを振り返る事で、見方が広がったことを実感できるようにする。 ☆友達の考えを聞いて、「美しさ」を感じるものは、人によって様々であることに気付いている。</p> <p>*身の回りで自分が「美しい」と感じるものを見つけたら、1週間後に紹介し合うことを伝える。</p>

8 板書計画 (授業記録参照)

II 授業記録

1 自分が知っている「雪」の絵を描き、実際の結晶と比べる。

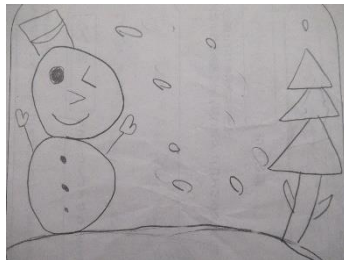
T: 冬と言えば何か思い浮かぶか。(空から雪が降る動作をして促す。)

C: 雪。

T: 雪とはどんなものかな。

T: 雪の絵を描いてみましょう。

C: えー。(驚きながらも、それぞれ思い思いに描く。)



T: みんなで見合ってみましょう。

C: ゆきだるまだ。かわいい。

T: いろいろな雪の絵があったね。

T: 実は、雪って…

(テレビで雪の結晶を映し出す)

C: わ～、きれい!

C: きらきらしている。輝いている。

C: 初めて見た。本物はまだ(見たことがない)。

C: 雪の結晶見たら、絶対になくさない。絶対にとかさない。



自分が描いた雪と本物の雪の結晶の違いから、雪の結晶に感動できるようにする。

2 教材「きらきら」を読み、感じたことを伝え合う。

T: 雪の結晶について教科書を読んでみましょう。

(教材を読む。)

T: 「きらきら」を読んだり、写真を見たりして、何か思ったことはありますか。

C: おもしろい。

T: 何がおもしろいのですか。

C: 形。いろいろな形がある。

C: 六角形とか。いっぱいある。

C: びっくりした。

T: 何にびっくりしましたか。

C: なんか花の形みたい。

C: おかしいな。

T: 何がおかしいのですか。

C: 六角形と書いているけど、1つだけ六角形じゃない。これは、鳥の羽みたい。

T: 「きれい」や「ふしぎ」、「めずらしい」など、いろいろな意見が出ていました。

T: 今は何の話でしたか?

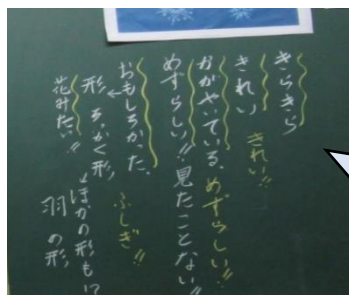
C: 雪の結晶。

T: そうですね。他に身の回りに今のように「きれいだな、ふしぎだな、めずらしいな」と思うものはありますか。

C: ある。(数人が挙がる。)

T: 「う～ん、あまり思いつかないな。」という人はいますか。(数人が挙がる。)

(考え中の人もいた。)



「美しい」と感じる心がどのような気持ちなのかに気付けるように児童の感想を板書する。

考える方向性を示し、板書する。

T: 今日、身の回りの美しさについて考えてみましょう。

3 身の回りの美しさについて考える。

T: 今日、先生がいろいろなものを用意しました。

T: みんなの身の回りにあるものです。

C: あつ、もみじだ。紅葉。 (落ち葉の掲示物の写真)

C: たしか1階にあった。

C: きれい。プールのところだ。 (夕日の写真)

C: 学校から見える夕日だ。

C: あつ、職員室の前の水槽。 (めだかの写真)

C: 用務員さんのめだかだ。白がきれい。

C: わあ。すごい。きれい。虹 (虹の写真)

C: 見たことある。 本物かな。

C: 海だ。 (海の写真)

T: 目をつぶってみましょう。(自然音を流す)

C: ああ。海だ。波の音。

T: きいたことある人いますか。

C: ある。(だいたいの人が手を挙げる。)

T: えんまこおろぎだ。(こおろぎの写真)

T: はい。目をつぶってみましょう。(自然音を流す)

T: ああ。こおろぎの鳴き声だ。

T: きいたことある人いますか？

C: ある。(だいたいの人が手を挙げる。)

T: 今、いろいろなものをどんどん紹介しました。

T: 美しいというのはどういうものですか。

C: きれい。めずらしい。ふしぎ。



身の回りにある自然や掲示物の写真や自然音を紹介し、その中から自分が「美しい」と感じるものについて考えることができるようにする。

身の回りにある美しさを思い出し、その美しさを感じ取っている様子が見られた。

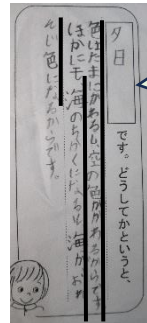
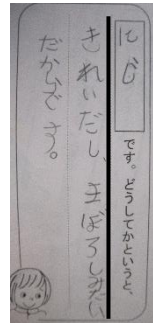
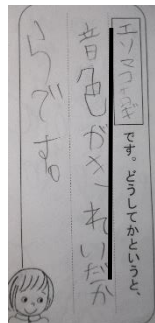
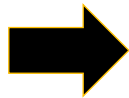


評価の視点

板書に書かれた雪の結晶の感想に注目させ、「美しい」と感じた心の気持ちを思い出させるようにする。

T: この中から、「美しいな。」と感じたものを選んでみましょう。

T: 選んだものとその理由をワークシートに書きましょう。



自分がどのようなものに「美しさ」を感じたのかを実感している。



評価の視点

C: エンマコオロギです。音色がきれいだからです。

C: にじです。きれいだし、まぼろしみたいだからです。

C: 夕日です。色はたまに変わるし、空の色が変わるからです。ほかにも海の近くになると海がオレンジ色になるからです。

(選んだものを紹介し合う)

C: 私が選んだのは魚です。どうしてかという、魚の形や模様がすてきだし、めずらしい魚だから、魚にしました。

T: 模様ってどの部分ですか?

C: しっぽのミッキーの模様がかわいいなと思った。

C: 私が選んだのは、波です。どうしてかという、波の音が好きだからです。

C: ぼくは、もみじです。どうしてかという、紅葉しているからきれいだし、秋のイメージがするからです。

T: 紅葉とはどんな色ですか?

「どんなところ(色)。」と問い返すことで、「美しさ」を感じたところがより伝わるようにする。

C: 赤や黄色がきれい。

C: ぼくは、エンマコオロギです。どうしてかという、音がきれいだからです。

C: 私は、海です。どうしてかという、きれいで、ずっと海を見ていたいからです。

C: 虹です。どうしてかという、めったに見ることができないし、めずらしいからです。

C: 私が選んだのは、夕日です。どうしてかという、自分は夕日が好きだし、気持ちがいいからです。

C: ぼくは虹です。どうしてかという、いろいろな色があってきれいだからです。

C: わたしは、夕日です。どうしてかという、初日の出をみたことがあって、にているからです。

C: 私が選んだのは虹です。どうしてかという、きれいでレインボーで雲も一緒にうつってきれいだからです。

C: ぼくがきれいだなと思ったのは、虹です。どうしてかという、三色の色がうっすらと見えるからです。

「美しい」と感じるものと同じでも、理由が違うことに気付かせるようにする。



T: では、最後にみんなの「美しい」と感じたものを見てみましょう。

C: わあ、虹多い。海も多い。〇〇さん、1人だ。

C: 夕日も多い。〇〇さんだけめだかだ。

4 本時を振り返る。

T: 今日は何について考えましたか?

C: 美しさ。

T: そうですね。みんな同じでしたか。

C: わたしは、同じだった。

C: ぼくは虹だけど、他の人もいた。

T: 同じ人や違う人がいましたね。それぞれ感じ方が違いそうです。

人によって感じた方が違ったことを振り返るようにする。

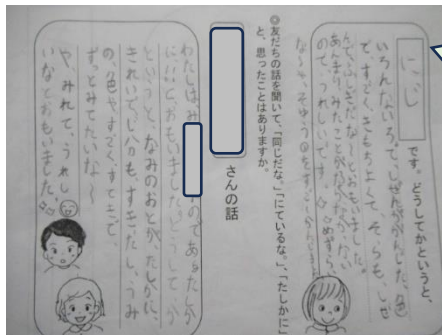
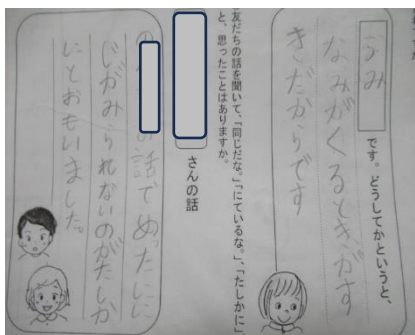


T: 友達の話聞いて、「同じだな」「にているな」「確かに」と思ったことはありますか。

(ワークシートに書く。)

C: 私は、〇〇さんの話が「確かに」と思いました。最初はミッキーマウスのところがどこかなと思ったけど、話を聞いたら確かにミッキーマウスの形と色でおもしろいなと思いました。

C: 〇〇さんの話です。どうしてかという、「波の音が好き」と聞いて「ああ、確かに」と思いました。波の音は確かに心が落ち着いて気持ちがいいと思いました。



友達の考えを聞いて、「美しさ」を感じるものは、人によって様々であることに気付いている。

評価の視点

5 「きらきらアルバム」作りに向けて意欲を高める。

T: 実はね、今日のものとは別に「美しいもの見つけた」と、言ってきてくれた人がいます。

(意図的指名)

C: 富士山です。富士山は、高くてきれいだし、たまにしか見る事ができないからです。

T: ほかに、みんなもありそう？

C: ある、ある。

T: では、今度は、自分で「きらきら」を見つけてみましょう。1週間後にみんなに紹介してもらおうと思います。GIGA 端末を持ち帰って、撮ってきてもよいです。

活動の見通しをもたせる。

Ⅲ 考察

(1) 本物とイメージの違いから興味関心を引き出す導入の工夫

雪の絵を描くことを伝えた瞬間、児童からは驚きの声が上がった。そして、驚くと同時にとても楽しそうに雪の絵を夢中で描き始めた。雪だるまや空から降る雪、吹雪など、それぞれがイメージする雪が出来上がった。その絵をお互いに見合った後、「実はね、雪って…」と、本物の雪の結晶の写真を大きくテレビに映し出すと、「わあ、きれい」「本物なの」「きらきらしている」「輝いている」と、雪の結晶に感動している様子が見られた。初めに雪の絵を描いたことで、本物とイメージの違いから興味関心を引き出すことにつながった。今後、その結晶のすごさを伝えるために、教科書にある二次元コードから、デジタル教材で結晶のでき方を見ることも考えられる。

(2) 写真や自然音の活用

身の回りにある自然や掲示物、自然音の中から自分が「美しい」と感じたことのものを選ぶようにしたことで、一人一人が自分の「美しい」と思うものを見つけることができた。そのことにより、自分がどのようなものに「美しさ」を感じたのかを実感することができた。また、自分の体験と重ねて理由を書いている児童が数人いた。「身の回りの美しいもの」と聞かれてもすぐには想起しづらいが、今回のように選択肢を示すことで、想起するきっかけとなることもあったと感じた。

さらに、自分の意見をもってお互いの意見を聞き合ったことで、自分の意見と友達の意見を比べることができた。そして、「美しさ」を感じるものは人によって様々であることに気付くことができた。これは、ワークシートに書いた振り返りからも分かった。

(3) 道徳教育との関連を図った取組

①きらきらアルバム

一週間後、児童は様々な写真を撮ってきた。家から見える夕日や紅葉した木、落ち葉など、授業時に見せた写真を参考にしたものが見られた。また、家で飼育しているめだかを動画で撮影してきた児童もいた。その他には、家に咲く花やアクセサリ、飾り物、家から見えた夜景、窓から差し込む光、しゃぼん玉などが紹介された。お互いの意見を聞き合う中で、共感したり、新しい「美しさ」に気付いたりすることができた。紹介後、「まだやりたい」との声が多く上がったため、冬休み後まで延長した。撮っ



てきた写真は、教室内に掲示し、常に見合えるようにしてある。「美しい」と感じるイメージがどんどん広がっているように感じた。

②他教科等との関連

国語

国語の「冬がいっぱい」の学習では、冬を感じるものを文章で書き、お互いに紹介し合うことがねらいとなっている。導入の段階で、「きらきら」を思い出した子がいたため、「冬のきらきをみんなで紹介合ってみますか？」となげかけた。教科書に紹介されている自然の植物や生き物の写真をオクリンクで見えるように用意すると、「見たことがある。きれい」と声が上がった。「きれい」や「すごい」、「不思議」と、改めて立ち止まって考えることができるきっかけとなった。

音楽

音楽では、歌詞の様子を思い浮かべながら歌うことがねらいとなっている題材「夕やけこやけ」がある。初めに聴いた時、「もっと聴きたい」と感想があったため、何度も繰り返し曲を流した。気持ちよさそうに聴いている様子が見られた。児童からは、「なんだか、落ち着く」や「なんだか、きれい」との感想があった。この「なんだか」こそが、言葉で表しづらいから「美しさ」を感じ取っている心のように感じた。その後、感想交流をする中で、「きれい、落ち着く」と感じる心も「美しい」と感じる心に気付くことができた。「音楽でも、きらきら音楽があつまりそうですね」と、身近で聴く音楽へ興味関心が高まるように促した。

図工

図工の「はさみあーと」では、白画用紙を自由にはさみで切り、偶然できた形から思いついたものを黒画用紙に貼り付け、作品として完成していく。ここでは、作品の鑑賞時に関連させるようにした。作品の鑑賞時、作品を見合い、友達にキラキラメッセージカードを送った。

「作品にもきらきはありそう？」と聞くと、「ある！ある！」と声が上がった。その後、オクリンクを活用して、自分が「きらきら」と感じた作品をみんなで紹介し合った。児童の感想の言葉を取り上げた。「すごい」や「本物みたい」、「きれい」などの言葉を板書にまとめた。その後、「自然や音楽の他にも、「きらきら」にはきらきら作品もたくさんあったね」と伝えた。「美しい」と感じるものは、身の回りにたくさんあることを実感できたように感じた。

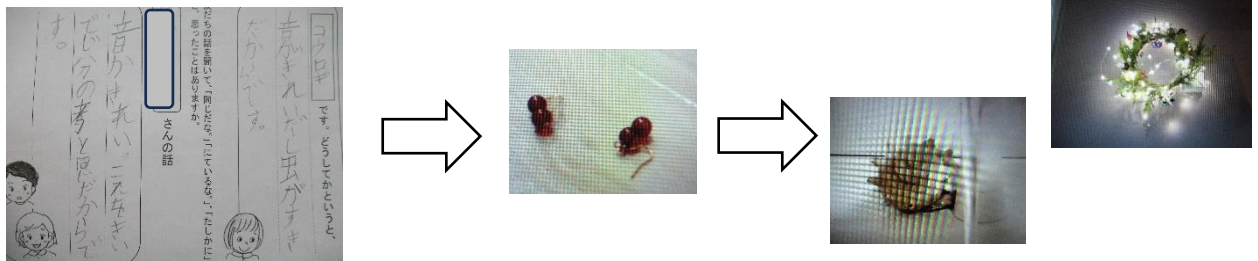
(4)「美しい」のイメージの広がりが見られた児童の紹介（きらきらアルバム）

低学年の児童にとって身の回りにある「美しさ」をイメージする時には、きらきらした物や自分の好きな物に関心を向けることが多いことが分かる。今回は、自然や掲示物、自然音を紹介したことで、身の回りにある「美しい」と感じるものを想起することにつながった。そして、「美しい」のイメージを広げるためには、お互いに感じたことを聞き合うことが大切だと感じた。なぜなら、「きらきらアルバム」を紹介した後には、その紹介内容に広がりが見られたからだ。また、他教科等と関連させたことは、自然への「美しさ」を考えるきっかけとなった。「きらきらアルバム」活動をする中で、自然の写真が増えてきていることからそれは分かった。

児童A

Aさんは、友達の意見を聞き合った後、自分と同じ意見の人に共感している様子であった。この児童は、自分とは違った友達の意見に耳を傾けることはあるが、そこから自分の考えが広がることの少ない児童である。その児童が、友達と「きらきらアルバム」を見合うことで、「美しさ」を感じるもののイメ

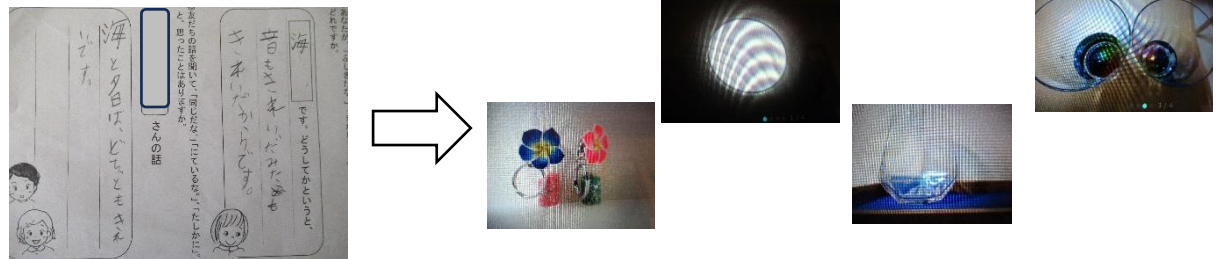
一ジが広がる様子が見られた。それは、友達が紹介した物を参考に写真を撮ってくるようになった姿から分かった。



児童 B

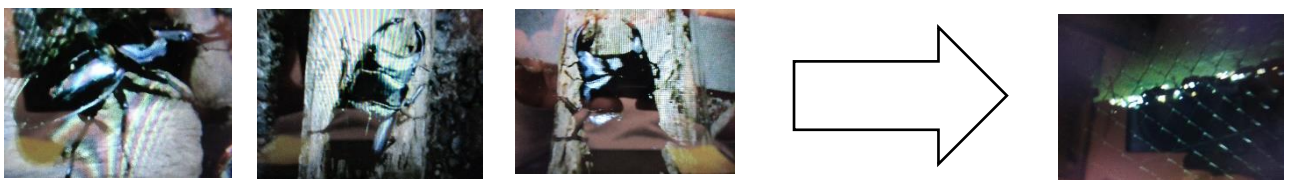
Bさんは、自分の意見をもつことが難しかったり、物事への関心があまり見られなかったりする児童である。道徳科においても、自分の考えをもつことができないことが多い。しかし、今回は選択肢があったことで、自分の考えをもつことができ、関心を高めている姿が見られた。さらに、「きらきらアルバム」を紹介する日には、「撮ってきたよ」と朝から紹介を楽しみにしていた。そして、友達の紹介時には、「わあ、きれい」と、「美しさ」を実感している様子が見られた。

(きらきらアルバム)



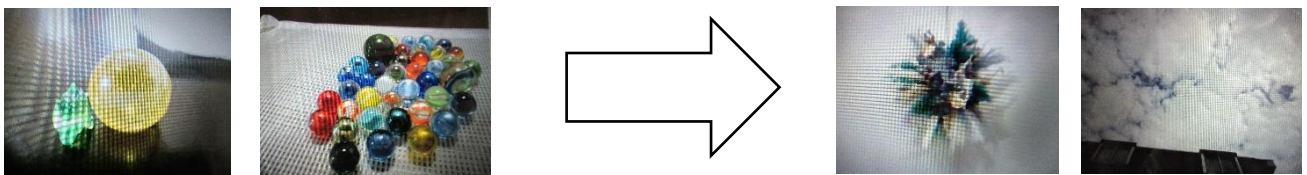
児童 C

「すごい」と感じる昆虫に夢中だった児童が、夜の風景へ「美しさ」を感じ始めた。



児童 D

「きれい」と感じる光る物から、自然の植物や空の風景へ「美しさ」を感じ始めた。



児童 E

本時の写真を参考にしていた児童が、飾り物や植物、絵などへ「美しさ」を感じ始めた。

